

「特定技能」分野担当 日本語指導助手として

国際交流基金バンコク日本文化センター
三戸 貴史

2023 年 4 月にバンコク日本文化センター（以下、JFBKK）に着任し、早いもので 1 年が経ちました。私のポストは「『[特定技能](#)』分野担当 日本語指導助手」という新設のポストで、他国の国際交流基金（以下、JF）拠点も含めて私が初の派遣者であったため、この 1 年間は手探りで業務に当たってきました。ここでは、「特定技能」分野を担当する日本語指導助手の業務内容を、レポートをご覧のみなさまにお伝えできればと思います。

「特定技能」分野担当 日本語指導助手の業務内容

私の担当業務は、主に（１）特定技能に関連する日本語教育機関への調査の実施、（２）『[いろどり](#)』『[JFT-Basic](#)』の普及に関する業務、（３）JF 講座の授業担当、企画・運営ならびに教材作成、（４）その他センター業務への協力の 4 つに大別されます。

（１）では、タイ国内にある「送り出し機関」と呼ばれる日本語教育機関を訪問し、特定技能制度に関連した日本語教育についての調査を行っています。送り出し機関は地方にあることも多いため、訪問のために出張することもあります。（２）では、主に『いろどり』や「[JFT-Basic](#)」のセミナーを行ったり、先ほど述べた送り出し機関の日本語学校に対して個別で勉強会を行ったりしています。タイにおける情報は「[いろどりホームページ](#)」や「[JFT-Basic Facebook](#)」でご紹介していますので、ぜひご覧ください。（３）では、JFBKK が行っている JF 講座という日本語のクラスで、『いろどり』『まるごと』の講座を担当しています。また、新規コースの開発にも携わっています。



『いろどり』セミナーの様子

（４）については、たくさんあるため詳しくは触れませんが、中等・高等教育支援事業や日本語パートナーズ事業など、JFBKK が実施している多様な業務に対して協力や事業見学を行っています。

JFBKK は、世界各国の JF 拠点の中でも規模が大きく、実施されている多様な事業内容に携わることができる点が魅力だと思います。その中でも、特に印象に残っている業務を一つご紹介します。

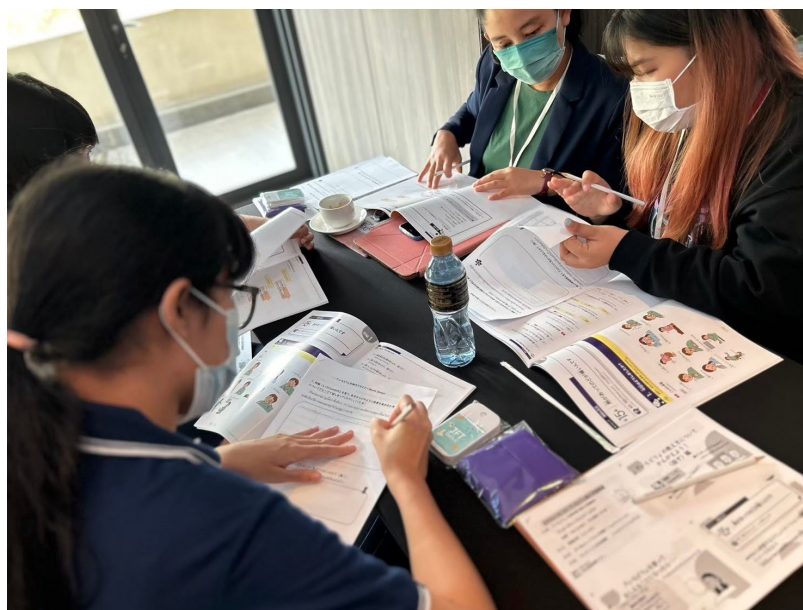
送り出し機関での『いろどり』個別勉強会

JFBKK では年に 4 回ほど、『いろどり』に関する教師向けセミナーを行っています。その成果か、『いろどり』の認知度自体はだいぶ高まってきているものの、実際にメインテキストとしての使用に踏み切るにはハードルを感じる学校も少なくありません。そこで 2023 年度から、現在『いろどり』を使用している学校もしくは使用を検討している学校に対して、教師の不安を解消し、テキストとして継続的に使用してもらうことを目的に個別の勉強会を開始しました。

今回ご紹介するのは、2023 年 10 月に行った個別勉強会です。この勉強会は、タイのイサーン（東北）地方の送り出し機関からの要望を受け、現地に出張し対面で実施しました。なぜこの勉強会が印象に残っているのかというと、理由が二つあります。

まず一つめは、セミナーや勉強会を通して、私が初めて「教師研修」に関わったのがこの勉強会だったからです。それまでは、セミナーや勉強会では司会や広報の役割を担当することが多かったのですが、初めて「講師」として教師研修に携わる機会をいただきました。この時は、「[いろどりオンラインコース](#)」の使い方を、送り出し機関の先生たちと一緒にパソコンを操作しながら考えました。「日本語の先生に対して教え方を教える」という教師研修は、JF にいなければなかなか経験できない業務の一つだと思います。

そして二つめの理由は、日本語専門家（以下、専門家）が不在の中、タイ人講師と日本語指導助手の 2 名のみで現地に赴いたためです。日本語指導助手には、指導してくださる「専門家」もしくは「上級専門家」の先生がおり、日頃から相談に乗っていただきながら業務を進めています。そのため、通常は専門家の下で業務をサポートする、という役割が多いです。しかし、この時は専門家が諸事情により現地に赴くことができずにリモート参加となり、急遽タイ人講師と私の 2 名のみで現地に赴くことになりました。不測の事態だったため、はじめは不安な気持ちもありましたが、日頃から専門家の業務を近くで見せていただいていたおかげか、大きなトラブルなく勉強会を終えることができました。そして、この状況を乗り越えた経験が一つ大きな自信となりました。



『いろどり』セミナー グループワークの様子

2 年目に向けて

タイに赴任してから 1 年が経ちました。専門家や、特定技能チームのみなさん、JFBKK スタッフのみなさんと協働しながら学び合うことができるこの環境は、とても恵まれていると日々感じています。実は、赴任前には「特定技能」についてほとんど知らなかったのですが、この 1 年を通して特定技能制度についても、そしてタイの日本語教育事情についても、多くの知識を身に付けられたように思います。その上で 2 年目は、今よりも主体的に自分の意見を発信し、タイの先生方に『いろどり』『JFT-Basic』をどうすればもっと知ってもらえるかを考えながら、日々の業務に取り組んでいきたいです。

残りの任期で、タイの日本語教育や『いろどり』『JFT-Basic』の普及のために、少しでも何かを残すことができればよいな、と考えています。

以上